

GE-2-i-03	B 生命倫理	第2学年	前期 選択必修	1.5単位
担当者	重野 豊隆			
一般目標 (GIO)	生命倫理・医療倫理に関わる主要な見解・主張などを理解し、さらにその前提を明らかにし、また別の立場からの反論の吟味などを通じて、自分の暫定的見解を具体的かつ論理的に表現する。そのために、クリティカル・シンキング (critical thinking / critical reasoning 根拠に基づく批判的考察) を実践的に行う。			
到達目標 (SBOs)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命倫理・医療倫理に関わる論点について、筋道立てて考え抜く態度を身につける。 2. 自分とは異なった見解を持つ者と、冷静かつ発展的に意見交換や討論ができる。 3. 自分の見解の不十分さを認め、よりの確な見解へと修正できる。 4. 患者や家族の意思決定を支える価値観の多様性を理解し説明できる。 5. 生命倫理・医療倫理に関わる主要な死生観・生命観・情報観などを説明できる。 			
受講心得・準備学習等	<p>生命倫理・医療倫理で特に問われる論点について、より深くより広範に考え直してみようとする態度が求められる。例えば第1学年「薬学の心構え I & II」で採り上げたテーマについて、それらに関連が深い発展的テーマを別の角度から再考してみたい学生に向いている。</p> <p>前半の回は、毎回論述式の小レポートを作成してもらい、厳しく採点する。後半のSGD(少人数のグループ討論)では受講生同士の議論を継続して積極的に行ってもらうため、やむを得ない理由を除いて、特に欠席は厳禁とする。</p> <p>全体を通して、毎回1時間以上の予習を前提とする。</p>			
事後学習・復習等	<p>授業で取り扱った内容を、新たに取り扱うテーマの議論に常に活かせるように、授業終了後も他の学生との意見交換を積極的に行う習慣を身につけること。全体を通して、毎回1時間以上の復習を前提とする。</p>			
オフィスアワー	授業のある金曜日 17:10-18:30。			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義形式で行うが、SGDも実施する。
回	項目	内容
1	ガイダンス	テーマの概要、評価の具体的な仕方と基準など
2	生と死を巡る問題	人工妊娠中絶、出生前診断と選択的中絶に関する論点
3	患者の物語を巡る問題	患者の語りにどのように寄り添うか
4	医療資源配分の問題	トリアージ(災害時の医療資源配分)はどうあるべきか
5	医療情報を巡る問題(1)	HIV感染者のプライバシー保護か他者危害の防止か
6	医療情報を巡る問題(2)	プラセボ投与は非通知か事前通知か
7	まとめ(1)	テーマと論点の整理、各自グループ討論のテーマ選択
8	SGD(1)	具体的テーマと論点決定のための討論
9	SGD(2)	具体的テーマと論点を深めるための討論
10	SGD(3)	各論点の発表内容確定についての討論と発表内容のまとめ
11	全体発表会(1)	各グループ代表者による発表と質疑応答
12	全体発表会(2)	各グループ代表者による発表と質疑応答
13	まとめ(2)	各グループ発表内容の評価と課題
14	まとめ(3)	全体を通じてのテーマ間の相互関連と課題

成績評価の方法	講義を受けての小レポート作成と、SGDと全体発表会への参加度、レポート2回(1回目は各自選択したSGDのテーマについて、2回目はテーマは任意、締め切り厳守)。
成績評価の基準	小レポートが40%、SGDと発表会への参加度が20%、レポート2回が40%。合計点が60%以上を合格とする。
教科書	教材プリントの配布と一部VTR活用
参考書など	<p>松島哲久・盛永審一郎 編「薬学生のための医療倫理」(丸善株式会社)</p> <p>後藤恵子 編「薬学生・薬剤師のためのヒューマニズム」(羊土社)</p> <p>水谷雅彦「情報の倫理学」(丸善株式会社)</p> <p>松田純 他「薬剤師のモラルディレンマ」(南山堂)</p> <p>赤林朗 編「入門 医療倫理 IとII」(劉草書房)</p> <p>その他、講義中に随時紹介する。</p>